

市民一人ひとりの生涯学習を支援する季刊情報誌

心みて、参加して！

ゆとろぎ通信

発行：羽村市教育委員会
企画：羽村市生涯学習センターゆとろぎ
編集：ゆとろぎ協働事業運営市民の会

Vol. 4
2009年3月1日発行
(通巻 12 号)

季刊ゆとろぎ改題
新装版



特別寄稿 ^{な み き つ ね の ぶ} 並木恒延
イタリアに行く (p.3)

連載
私の生涯学習
第8回

スポーツトレーナーの
経験を活かして教師へ
^{み ず の け い こ} 水野桂子さん (p.2)

09年上期のゆとろぎ
イベントガイド (p.6～7)

劇団わらび座が
やってくる！

6月20日(土)
ゆとろぎ大ホール

ミュージカル
火の鳥
手塚治虫原作 (p.6)

座談会

ゆとろぎ協働事業の
3年を振り返って (p.4)

ゆとろぎ開館3周年記念事業
レポート

はむらの「第九」演奏会 (p.5)
生涯学習フォーラム
in はむら (p.5)

ゆとろぎ開館3周年記念

連載
私の生涯学習
第8回



スポーツトレーナーとして羽村市や多摩地区で活躍。昨年、東京都の小学校教員採用試験に合格。2006年にブラジル出身のご主人と結婚し1児の母。1974年、新潟県新発田市生まれ。

スポーツ大好き少女が高校卒業と同時に女子の体育系大学へ進学。4年後、教員をめざすが「夢」はかなわず、スポーツ機器の輸入販売会社に就職しスポーツトレーナーに。スポーツを通して出会ったさまざまな人が、それまで知らなかった新しい世界を教えてくれた。そして、「夢」のまま眠っていた教師の道へ再挑戦を決意させた。

スポーツトレーナーの経験を活かして教師へ

みずのけいこ
水野桂子さん

■「出会う人に恵まれた」

水野桂子さんは繰り返し言う。新潟県出身の彼女が東京、羽村市、ブラジル、と活躍の場を移してきた背景には、いつも「人との出会い」があったからだ。

体育大学を卒業後、スポーツ器具の輸入販売会社に就職。トレーナーとして、多摩地区の公共スポーツ施設に派遣された。たまたまある職場でブラジル人の男性と知り合い、話をするようになった。「私の中では、外国人イコール『英語を話す人』というイメージだったので、初めて聞くポルトガル語が新鮮で（笑）」

言葉はわからなかったが、ブラジルに興味を持つきっかけとなった。何度も顔を合わせるうちに、ブラジルという国をもっと知りたいと思うようになり、ついにはブラジル一人旅を敢行。この旅行で一挙にブラジルの虜になってしまった。

ブラジル一人旅の後、スポーツトレーナーとして実績を積んでいた25歳の時に、誘われて羽村市スポーツセンターのトレーナーにな

る。そして、3年後、思いがけない転機が訪れた。

スキルアップのために通っていたスポーツクラブで、『日本ブラジル交流協会』が実施している、ブラジル研修留学のことを耳にしたのだった。

指導を受けていたインストラクターがクラブを辞めるところ、その理由を聞いたところ、「ブラジルに研修留学に行く」のだと。ブラジル？研修留学？

そんな道があるとは知らなかった。その夜、帰宅するとすぐにインターネットで調べた。申込み締切り日の3日前のことだった。

■ブラジルに恋して

面接試験と1年間に及ぶさまざまな課題試験を乗り越えて、第23期研修生の一員に選ばれた。23期の最年長者だった。

研修期間は1年間。研修先はサンパウロ州のサンベルナルド市体育課。公共施設でのエアロビクスや健康体育指導、子どもたちへのスポーツ・レクリエーションの指導にあたった。

当初、ポルトガル語はいさつ程度しかできなかったが、宿舎にしていた学校で、日系ブラジル人から語学を学び、語学研修と体育館でのトレーナーの仕事を通して、言葉を少しずつ覚えていった。

ブラジルはサッカー王国としてよく知られているが、実は、国を挙げてスポーツに取り組んでいる。サンベルナルド市でも市立体育館やグラウンドなど日本の数倍もあるという、立派な設備を整えている。市民のスポーツへの関心も高い。

「出発前、ブラジルは治安が悪い、と脅かされました（笑）。実際にスリにあったこともありま

かり魅了された水野さんは、いったん帰国し、再度ブラジルに戻ってくる気だった。だから、荷物の大半はそのまま宿舎に残して帰国した。

■新たな出会いが

帰国後、羽村市体育協会のスポーツトレーナーに復帰した。31歳で結婚、子どもを授かり、一年間の育児を経て、再び体育協会の非常勤事務職として働くことになった。そして、再度、転機が訪れる。

スポーツセンターに来ていた小学校の先生から「指導補助」という仕事があることを知った。水野さんは中学・高校の体育の教諭免許を持っていた。学生時代、教師を夢見たこともあって、指導補助に応募し、採用された。

いざ授業に参加してみると、「子どもたちが可愛くて（笑）。また、私がかけていただいている先生方が、教師としても人間的にも、とてもすてきな方で、自分もこんな先生に教えてもらえたら……」と思うようになり、眠って

いた教師への思いが再び頭をもたげてきた。

■教師への道

目標が定まると、水野さんの行動は早い。小学校教諭の免許を取得するため、大学の通信課程で学び始めた。そして、昨年、東京都の教員採用試験に合格した。

「結果としては良かったけれど、挫折したことも幾度かあります。やりたいことを勝手にやってきたような節もありますし……。出会う方、知り合う方に本当に恵まれたと思っています」

一つひとつ、言葉を確かめながら話す姿が印象深い。子育てをしながら新たな「自分探し」に挑む姿は、スポーツの信条と一脈を通じているように感じられた。

（取材・日下田まや／写真・平田栄二）



日本ブラジル交流協会からサンパウロ州に派遣され、スポーツトレーナーとして指導にあたる一方で、現地のカポエラ教室に通い、いろいろな人と出会った。予期せぬ困難も体当たりでぶつかり乗り越えた。



ブラジルの人にはなじみのない「青竹」を船便で取り寄せ、「青竹ピクス」を紹介。



特別寄稿

並木恒延 イタリアに行く

ダイナミックな作品で多くのファンを魅了する、漆工芸作家の並木恒延氏が昨年秋から冬にかけて、文化庁の特別研修員としてイタリアに留学。多忙な中、その様子を本紙に寄せていただきました。



並木恒延氏 羽村市在住の漆工芸作家。1973年、東京芸術大学ヴィジュアルデザイン科卒業。77年、同大学大学院漆芸講座修了。同年、日展及び第16回日本現代工芸美術展に初入選。2003年、第42回日本現代工芸美術展にて『あした』が内閣総理大臣賞受賞。06年、日展にて『潮の紋』が文部科学大臣賞受賞。08年文化庁特別派遣在外研修員としてイタリア留学。1949年、羽村市生まれ。

昨年、文化庁派遣による在外研修員としてイタリアに留学してきました。10月のシチリアはまるで夏の様に暑く、11月のミラノでは雪に震え、12月のローマはデヴェレ川の増水にハラハラさせられたり、移り行く季節を味わえた旅でした。

イタリア美術を吸収するだけでなく、私の職業でもある「うるし」を紹介する目的でワークショップ、いわゆる、実演を2ヶ所の学校から依頼され、漆材料や道具で一杯になったスニーカーも旅の友でした。

風土も習慣も異なる国。五百年前の建物でのアパート生活。石文化の圧倒的な迫力を認めながらも片方では日本人の優しさと勤勉さ、食文化の質の高さや緑溢れる水の国、そんなニッポンをもう一度感じる日本探しの旅だったのかもしれません。



ローマのアカデミア (ACCADEMIA DI BELLE ARTI DI ROMA) での実演風景。小さな漆板を用意し、蒔絵や螺鈿、卵殻技法の公開制作をした。この会場は普段、版画の教室として使われている。

ルネッサンスの都「フィレンツェ」。左の塔はヴェッキオ宮殿（現フィレンツェ市庁舎）。右の円錐形の建物はドゥオーモ（花の聖母教会）。手前はアルノ川。



座談会

ゆとろぎ協働事業の3年を振り返って



(写真右から、福佐健二氏、横田鑑氏、堀茂子氏、田中繁生氏、村山利夫氏)

ゆとろぎは08年に開館3年目を迎えました。それを記念して、『はむらの『第九』演奏会』と『生涯学習フォーラム』はむら』を開催し、歓喜の歌声とともに新たな一歩を踏み出そうとしています。3年目を終えるにあたって、ゆとろぎ市民の会とゆとろぎセンター長にこの3年間に對する思い、ゆとろぎ市民の会の今後について語り合ってもらいました。

出席者
市民の会会長 堀 茂子
学習文化部会長 横田 鑑
芸術鑑賞部会長 福佐健二
展示部会長 田中繁生
ゆとろぎ市民の会事務局 村山利夫
ゆとろぎセンター長 田中繁生
情報発信部会長 平田栄一
司会

—— ゆとろぎの3年目が終わろうとしています。一言では無理ですが、感想を。

田中 ゆとろぎは生涯学習の成果をまちづくりに活かしていくための施設ですが、どのように活かしていくのか模索した3年間だったように感じています。落ち着いてきた面もありますが、問題・課題も見えてきました。

村山 事務局としては、正直なところ反省ばかりで(笑)、まさに「五里霧中」という感じでしたね。市役所の呼びかけに100人もの市民が集まってきたことに驚きましたが、公民館時代に培われた「協働」に對する市民意識が背景にあったのだと思います。そういう市民の方々が情熱を燃やし、結束して降り掛かる火の粉を払いながら突き進んできた、という感じですね。

堀 開館までの準備期間が半年しかない中で、なんとかやってこられたのは、市民の会に参加した一人一人の熱意と事務局の力が大きかったと思います。スタート当初から「先のことを計画して進めたい」と考えていたのですが、理屈を言っても始まらないので、「ともかくは今できることから始めよう」と。いろいろなこと

を実践して行く中で、「ゆとろぎが市民にとって真に使いやすい施設になっているだろうか」あるいは「自分たちは自信を持ってやっているつもりだが、ほんとうに市民にとって良い事業だろうか」と各部会が振り返る余裕ができたと思います。

行政との「協働」といっても、お手本がなかった。羽村なりの方を私たちが自ら作って行くしかなかった。その方法論を探りしてきた3年だったと思います。3年目に入って、行政との「協働」だけでなく、他の組織との連携の必要性も浮上してきています。

—— 芸術鑑賞部会はこの3年間で30を超える事業を企画運営してきました。ボランティアの域を超えている(笑)、との評もあります。

横田 アートディレクターとしての素養をもった人たちが芸術鑑賞部会に集まった結果でしょうね。「生涯学習の観点から幅広いジャンルの事業を、幅広い年齢層の市民に提供する」と「市民自身の手による事業の企画運営」を部会の基本方針として、事業の企画提案者が主体的に事業の運営を担当し、足りないところをみんなで補完するシステムをとってききました

が、ここに至って難しくなってきた面もあります。

福佐 展示部会の初年度は、「ギャラリーの通年オープン」を目標に、やってきました。2年目、3年目は自主企画を実践してきました。「羽村の埋もれた作家を発掘する」というコンセプトに基づいて事業を企画したところ、「羽村にもこういう作家がいたのか」と市民のみなさんに認識してもらえたのは大きな成果でしたね。

「生涯学習センター」の主旨を考えると、展示室の市民開放が優先するの、市民の会の事業が優先するの、部会内でも議論が分かれています。「展示部会の存在意義はなにか」という根本的なテーマにも関わっていますので、大きな検討課題だと思っています。

—— 試行錯誤の3年間で、いろいろな課題も見えてきました。これからなにをめざしますか？

堀 「ゆとろぎらしさ」、「羽村ならではの事業」を大切にしたいですね。

横田 公演と講座、公演と展示というように、他の部会との連携も「ゆとろぎらしさ」の一つだと思います。ゆとろぎ全館を使って、ゆとろぎの機能をフルに活かした事業が可能だし、いろいろなことが実現できる。いろいろな人をゆとろぎに呼び寄せることが出きます。超一流の公演を呼ぶことが出きます。

福佐 初年度に行った「能面展」は芸術鑑賞部会とのコラボの成功例です。半年先、1年先の事業計画がわかっていれば、コラボは可能だし、展示部会の出番(笑)もあります。他部会の事業企画に展示部会も協働歩調でいっしょになってやっていくというのも一つの道だと思っています。「生涯学習とは何か？」を考えながら、よりよい展示事業を追究していきたい。

田中 今までのような行政単独主催では考え得なかったことが市民の会との「協働」によって実現できるようになりました。それがゆとろぎの良さです。そういうものを伸ばしていきたいですね。展示についても、市民アーティストを集めたイベントが考えられます。展示部会がどう受け入れるかが課題でしょう。芸術鑑賞事業は、単年度予算という行政の制約をどうクリアするかが研究課題です。宝くじの助成とか補助金などを利用する方法もあります。演劇の鑑賞人口が増えているし、クラシック音楽も広めていきたい。講座事業もバランスを考慮して企画されていますが、受講者の年齢層も嗜好も拡大する中で、どういう事業を行っていくべきか、さらに研究していく必要があると思います。

村山 外部から客観的に評価してもらうことも必要ではないかと思っています。「市民の会は大したもの」と驚異の眼差しで見られていくところもあります。それを励みにしたいし、どこにもないすばらしい形ができるのではないのでしょうか。

ゆとろぎの3年目を振り返ってみると、事業を行うことに忙しく、充分な話し合いを積み重ねる余裕のないままに、メンバーの「思い入れ」や「情熱」で転がってきた、ということではないでしょうか。それが「ゆとろぎらしさ」かもしれません。

議論しておかなければならないテーマがあることに気付いたことは大きな収穫です。新たな可能性も見えてきました。「ゆとろぎらしさ」を持ち続けながら、文化協会、はむすぽ、体育協会、学校関係など、市民の会以外の団体とも連携することで、「羽村らしい生涯学習」への道が拓かれようとしています。

ゆとろぎ開館3周年記念事業

レポート

ゆとろぎが2006年に開館し、この3月に3周年を迎えます。これを記念して、1月には市民合唱「はむらの『第九』演奏会」が、2月には「生涯学習フォーラム in はむら」が盛大に行われました。その模様を報告します。

生涯学習フォーラム in はむら



2月14日(土)、ゆとろぎ小ホールにおいて、『生涯学習活動の新たな可能性を探る』をテーマに開催された。

ゆとろぎ協働市民の会、羽村市文化協会、NPO法人羽村市体育協会、はむら総合型スポーツクラブ(はむすぽ)、市民活動・ボランティアセンターはむら、羽村市立小中学校の協力のもと、生涯学習に関心の深い羽村市民や市外からも含めて110人が参加。活発な意見交換と交流を行った。

討議にさきがけた基調講演では、渡部理絵氏(日本女子大学大学院社会教育学修士課程修了)が『ゆとろぎに見る協働の成果と課題』と題して、ゆとろぎ協働市民の会と行政による「協働」の実績を調査したことから見えてきた長所と課題をわかりやすく分析。「ゆとろぎらしさ」をさらに発展させるために、“人と人のつながり”をさらに

育ててほしい」と結んだ。基調講演に続く事例報告では、フォーラム実行委員がそれぞれの組織の活動内容と課題を報告して、討議の資料とした。

全体討論では、「一般市民が事業の企画に気軽に参加できるシステムが必要」「人材育成の観点から、各団体のメンバーが“団体間留学”するのもよいのではないか」あるいは「情報がなかなか伝わってこない。連携して情報を発信してはどうか」などの発言が相次いだ。最後に、「“はむらしい”生涯学習社会の実現に向けて、このフォーラムを契機に関連する諸団体が“協働”していく」ことを満場で確認して終了した。

フォーラム実行委員長長の堀茂子氏は「独自に活動してきた組織が一つの土俵に登ったことが画期的な成果」と今回のフォーラムの意義を強調した。

はむらの『第九』演奏会

1月25日(日)。晴天。ゆとろ

ぎ大ホールに「歓喜の歌」が高らかに響きわたった。それは、舞台に立つすべての出演者と満席の観客の胸を打つ、本当に奇跡のような美しさと力強さだった。

『第九』への挑戦は、登山でいうならエベレスト登頂をめざすことだと思ってください」

プレ講座での指揮者、遠藤浩史氏の言葉は冗談でも何でもなかった。

「ドイツ語なんて初めて」「こんな高い音、出るわけない」

「暗譜なんて無理よ!」

登山靴のひもの結び方さえ知らずに参加した「ド素人」を含む新造合唱団の前途を危ぶむ声もあったが、8か月にわたる練習で脱落者がほとんど出なかったのはなぜか。大変だけれど手応えのある毎回の練習が、とても楽しかったからだ。

ゆとろぎ開館祝賀祭の市民合唱などの指導でおなじみの千田鉄男先生に加え、今回の「第九」には強力な助っ人が現れた。羽村で育ったバリトン歌手、大井哲也氏(二期会会員)がボイス

トレーナーとして参加。あの手こ

の手の例えに、惜しめない実演をまじえて、本格的な発声のコツを伝授してくれた。笑いの絶えない和やかな雰囲気の中で、いつしか自分のものとも思えない本格的な声が出てくることへの驚きと喜びが、参加者を虜にしていた。

さらに、本番の指揮者、遠藤浩史氏が異例ともいえる公演1000日前から7回にわたって特別指導に訪れ、「フロイデ(歓喜)」に込められた作曲者の思い、重厚かつ緻密に織られた楽曲の構造など、『第九』の魅力を情熱的に、わか

りやすく、粘り強く語ってくれ、参加者の意欲をかきたてた。その一方で、演奏時間が1時間にもおよぶ全曲を仕上げた羽村フィルのメンバーにも、血と汗と涙の努力があった。当日午前のリハーサルまでギリギリのダメ出しに応え、迎えた本番。「天から本番の神様が降りてきた」と絶賛される出来栄だった。

ゆとろぎの開館時から構想を練り、超一流のソリストをそろえ、指導体制を整え、綿密な練習計画を練り、場所の確保から事務連絡まで、文字通り東奔西走してこの事業を支えた事務局スタッフをはじめ「はむらの第九」メンバーの全員に、乾杯! (江久保千英)

“歓喜の歌声”が大ホールを魅了!



09 年上期のゆとろぎ イベントガイド

ゆとろぎでは、年間を通してさまざまな鑑賞事業、学習事業を計画しています。ここでは、この4月から始まる09年度の事業企画の中から、上期に行われる事業を中心に紹介します。詳細はゆとろぎへご確認ください。09年度も、ゆとろぎは1人でも多くの市民のみなさんに「ゆとりとくつろぎの時間」を体感していただけるように頑張ります。どうぞ、ご期待ください。

芸術鑑賞

ゆとろぎの芸術鑑賞事業は、「普段なかなか身近に接することのできない、一流の芸術を市民に提供」を理念に、09年度も音楽、演劇、寄席とさまざまなジャンルの公演事業を計画。いくつかをご紹介します。

劇団わらび座公演 ミュージカル『火の鳥』

あの劇団わらび座が、またゆとろぎにやってきます。わらび座については既にご存知の方も多いはず。1950年代に学生演劇からスタートし、「人間の尊厳、いのちの美しさを描き、人々の心の糧、生きる力になる芸術活動」を理念と目的に、秋田県仙北市を本拠地にして、全国で公演活動を行っています。今回のゆとろぎ公演は、羽村市民の有志の方々と協働によって実現することができました。

本質・人間の愛憎を壮大なスケールで描いた原作を無我夢中で読んだ人も多はず。その原作をわらび座が歌と芝居で表現します。
6月20日(土)、開演午後3時(開場午後2時30分)。ゆとろぎ大ホール(全席指定)。入場料は、一般が4000円、高校生以下は2000円。10枚以上の同時購入の場合は1枚500円引き。未就学児の入場はできませんが、一時保育(有料・要予約)が用意されています。
チケットの販売は4月3日(金)午前9時からゆとろぎ、4日(土)以降はスポーツセンター、マルФЗ10店でも、6日(月)以降は西多摩新聞社チケットサービスでも販売。公演当日に席に余裕がある場合は当日券を販売。

憧れのビッグバンド登場！ グレン・ミラーオーケストラ

「ビッグ・バンド」の代名詞ともいえるグレン・ミラーオーケストラが大ホールに登場。

1940年代のアメリカ、当時新進のトロンボーン奏者で作曲も手がけたグレン・ミラーによって、トロンボーン、サクソ、トラン



ペットなどの管楽器を中心とする大編成の楽団が結成された。彼らが演奏する『真珠の首飾り』『ムーンライト・セレナーデ』『茶色の小瓶』はミリオンヒットとなり、現在ではスタンダードの名曲として親しまれ、日本人でも一度はどこかで聞いた覚えがあるはず。
楽団創設者のグレン・ミラーは第2次世界大戦に志願し、ドーバー海峡で戦死した。彼の音楽精神は受け継がれ、そのオーケストラも代を経て引き継がれている。
「ビッグ・バンド」の、ときに甘く、ときに元気のでるサウンドをお楽しみに！本公演は「宝くじ助成」事業です。

ギャラリー

ゆとろぎ展示室は、市民のみなさんが気軽に、日常的に絵画や美

術作品とふれ合い、作家の方々と交流できる場所として、さまざまな企画を準備中です。

絵本原画展

09年度早々、ゆとろぎ開館以来ゆとろぎの定番となった、羽村市図書館との協働企画、絵本原画展が行われます。

今年度は「いとうひろし絵本原画展」を4月15日(水)から26日(日)まで開催(ゆとろぎは原則として月曜日休館)。18日(土)には、絵本の読み聞かせといとうひろし氏を招いての講演会も予定しています(いずれも入場無料)。

絵本作家のいとうひろし氏は1957年東京生まれ。早稲田大学教育学部卒業。『おさるのまいにち』シリーズ(講談社)で「路傍の石幼少年文学賞」を受賞、『ラルさんのにわ』シリーズ(ポプラ社)で「絵本にっぽん賞」を受賞するなど、独特のユーモラスで温かみのある作風の絵本・挿絵の仕事で活躍中です。

アート3はむら展

羽村や多摩地区を拠点に活躍する現代アート作家の作品を一堂に集めた『アート3はむら展』は、今年9回目を迎えます。ゆとろぎの全館を会場にして、どんな作品が並ぶのか、期待がふくらみます。期間中には、出展作家が自ら作品の解説をしてくれる「ギャラリートーク」やワークショップも予定されています。

この他、5月には、『中根喜作遺作展』を開催予定。羽村出身で教育者として大きな足跡を残す一方、日展入選をはじめ数々の業績を遺した故中根喜作氏の書、絵画などの作品を展示。8月には、写真展『桜井保秋展』を予定しています。

講座・教室

学習文化事業は「暮らし・生活」「芸術・趣味」「学習・教養」「地域・社会」の柱立てで企画しています。

文学講座

源氏物語と枕草子の世界

紫式部が『源氏物語』を書いて1000年。清少納言の『枕草子』とともに日本の女流文学の双璧とも讃えられています。紫式部と清少納言、実は互いに相当なライバル意識をもっていたとか。文学作品としてのすばらしさはもちろんのこと、当時の貴族社会の権力争いや作者の個性も興味がつきません。5月7日から9月17日(毎月第1・3木曜日)の午後1時30分から3時30分。受講料は5000円(全10回)。定員30名。申込みは往復はがきでゆとろぎへ(締切り4月23日必着)。

心と身体の健康シリーズ リラックス・ピラティス

ヨガとよく似た「ピラティス」で心と身体を開放して、毎日生き生きと過ごせる活力を生み出しましょう。5月13日から7月15日(毎週水曜日)の午後1時30分、3時。受講料は5000円(全10回)。定員20名。申込みは往復はがきでゆとろぎへ(締切り4月29日必着)。

この他、好評を博している「子育て中のお母さんのための講座」や美術系創作教室なども企画しています。

ゆとろぎでは市民のみなさんからの企画もお待ちしております。また、市民の会への参加も大歓迎です。関心のある方は、市民の会事務局までお問合せください。

2009 年度の事業計画案

(●=通年・シリーズ事業／◎=単独事業／◆=共同事業)

※本欄に記載の事業はおおよそその開催月（上中下旬）を示しています。
※本欄に記載の事業は計画段階のものも含まれています。諸般の都合により、開催日を変更または取りやめることもあります。詳しくは「ゆとろぎイベントガイド」（毎月15日発行）あるいは「ゆとろぎ通信」、「広報はむら」などをご参照ください。
※ゆとろぎは祝日を除く月曜日が休館日です。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
芸術鑑賞	大小ホールほか			●羽村ゆかりの音楽家たち				●羽村ゆかりの音楽家たち				羽村ゆかりの音楽家たち●		
					●ゆとろぎの音楽家たちⅡ（7月、9月、11月開催）						◎新春邦楽の集い			
						◎フレッシュ名曲コンサート				◆子どもフェスティバル				
									◆グレン・ミラーオーケストラ					
					◎音楽の絵本									
				◎劇団わらび座公演 『火の鳥』						◎人形劇 プーク座公演				
		●ゆとろぎ寄席（定席5回／「てん五会」5回）-----→												
展示	ギャラリー	◆いとうひろし絵本原画展				◎写真展「桜井保秋展」					◎中根喜七郎氏 寄贈展Ⅳ			
		◎書道展「中根喜作遺作展」					◎ボタニカルアート展							
		◎現代アート 「アート in はむら展Ⅸ」								現代アート 「大野美代子展」◎				
		●ゆとろぎ美術館（年3回入れ替え）-----→※							※-----→					
暮らし・生活	暮らし・生活							◎女性のための自分力アップー→						
		◎リラックス・ピラティス-----→												
		●情報通信で変わる暮らし 「インターネット活用入門」												
		●子育て中のお母さんのための講座-----→												
	芸術・趣味	◎美術工芸教室（前期）-----→						◎美術工芸教室（後期）-----→						
									◎詩吟体験教室				講座受講生作品展◎	
		●アートちょこっと体験講座（全5コース）-----→												
学習文化	学習・教養		◎行列が出来る講座の作り方と 広報紙、チラシの作り方					◎解字から漢字を学ぶ						
						●国際理解講座				●国際理解講座				
		●文学講座「『源氏物語』と『枕草子』の世界」→					●文学講座「短歌入門」-----→							
		◎IT技術関連					◎多摩の幕末維新							
		●大学提携講座					◎江戸文化を知る							
		●サロンでトーク				●サロンでトーク				●サロンでトーク				
地域・社会	地域・社会			●中高年いきいき講座 「地域で生かそう！あなたの力」										
		●エネルギー・環境を考えよう-----→												
		●大学提携講座												
情報発信	ガイド 通信 Web	●毎月15日発行												
		●年4回発行（6月、9月、12月、3月の各1日）												
		●随時最新のニュースを発行（http://yutorogi/）												
関連行事		◎羽村市美術・工芸展 ◆サロン・コンサート（5、6、7、9、12、1月）						◎羽村市文化祭			◆ゆとろぎで お正月を遊ぼう		はむら音楽祭◎	
		◎風のおわら								◎青少年健全 育成の日		◎成人式 ◎地域教育シンポジウム		
		●市民大学講座（年間3コース）-----→												

ゆとろぎ
クラブ

「ゆとろぎクラブ」のコーナーはゆとろぎと市民のみなさんをつなぐ紙面スペースです。ゆとろぎの裏話やちょっとした話題をお伝えします。市民のみなさんから投稿あるいは情報の提供も歓迎です。気軽にご応募ください。

市民の会の“コミュニティサイト”
4月から本格スタート！

ゆとろぎ協働市民の会では、会員間で情報の共有化に向けて、インターネットを利用した“コミュニティサイト”の開設を検討してきました。ほぼ1年にわたる試作運用を経て、この4月から本格的な運用を開始することになりました。

このコミュニティサイトは、現時点では市民の会会員の活動ツールとしてスタートします。近い将来、「友の会のコミュニティサイト」も開設する方向で準備

を進めています。

“コミュニティサイト”は企業や個人が商品やサービスなどを宣伝したり、日記を公開したりするウェブサイト（通常、“ホームページ”とか“ブログ”と呼んでいる）とは異なり、ある特定の目的やテーマで複数の個人が集まり“一つの社会”を作って、共通の情報を交換したり話し合ったりすることから、こう呼ばれています。

市民の会の会員はこのサイトの中で、ゆとろぎの全

企画の詳細な内容や予定、イベントに関連した映像、サークル活動の情報、外部団体の情報などを蓄積したり再利用して、場所や時間の制約を受けずに、市民の会の活動に活かすことができるようになりました。URL <http://yutorogi.jp> のトップページには、一般の方々にも公開可能な情報を掲載してありますが、市民の会専用ページは会員のみ閲覧が可能です。市民の会会員以外の方は、ゆとろぎに関する情報を掲載した公開ページに、一度、アクセスしてみてください。新しい世界がひろがります。（藤原忠）

ゆとろぎ協働市民の会

市民の会の予定

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

市民の会からの最新ニュース

連絡を、する・受ける

報告を、する・読む

仲間、を求める・に入る

今後の出来事

市民の会専用ページ……月別年間のイベントカレンダーやイベントの詳細情報などを共有します。

市民の会が協働して活動する羽村市生涯学習センターゆとろぎ

市民の会の協働企画

市民の会からの最新ニュース

ゆとろぎをいっそう盛り上げるための仲間を募集中

芸術鑑賞部会

展示部会

学習文化部会

情報発信部会

保育室運営

レセプションの会

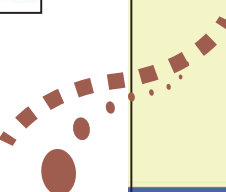
舞台操作

植栽

だれでも閲覧できるページ……ご覧のコンテンツは一部です。これから随時内容を充実していきます。

友の会メールマガジンも創刊間近！

メールアドレスを登録いただいた「友の会」の会員には、メールマガジンの配信を準備中です。ゆとろぎのイベント情報をより早くお届けすることはもちろんのこと、チケットの残り数を知ったり、計画中のイベント企画にご意見をいただいたりできるようになります。友の会メールマガジンの配信を希望される方は、ゆとろぎの催し物にご参加の際にお願いしているアンケート用紙にメールアドレスを記入していただくか、tomonokai@hamura-tokyo.jp 宛てに「友の会メールマガジ希望」のメールを出すことで友の会に自動的に加入し、配信が受けられます。



【編集室から】 ゆとろぎは新しい時代を迎えようとしています。市民に愛されるゆとろぎをめざして、遠慮のない叱咤激励をお待ちしています！

【担当者のひとり言】

●『第九』の最大の収穫は「私にもまだ成長の芽がある！」と思えたこと。生涯学習の真髄ですね。（えくぼ）

△3周年を迎えた「ゆとろぎ」。開館当初、湯とろぎってこの湯？なんて言われたりしましたが、「ゆとりとくろぎの場」として定着しましたね！（関根）

■今年、イベントガイドの制作作業で多くのことを学ばせてもらいました。自らの生涯学習を味わっています。（長尾）

▽水野さんの話に、すっかり刺激を受けました。夢は異国に……。見聞を広めて……。まずは旅費を貯めます。（M・H）

○今や大昔のことだが、パソコンのモニター画面をカメラで撮影していた時代があった。現代はカメラ不要。簡単に画面を画像化できる。還暦目前にして、また一つ、スキルアップした。（ヒラタ）

◆温暖化の影響が梅の開花が年々早くなっている感じが。4月からの展示事業、新たな気持ちで質の向上を。（ぶくき）

▽今年は己丑（つちのとうし）で、泥田のような混沌の世界。しかし、「丑は紐」に通じ、田畑を耕しまとまり始める方向が見えてくるのか。オハマ流に Challenge！（古澤）

▲いいえ、決して眠んでいるわけではないのです。みんな緊張しているだけなのです。座談会の後のひとり言。（堀）

◎ゆとろぎはさながら羽村の文化工場。夢のようなイベントが次々と。市民、企業、学校、財団、智恵と力が一つになつて益々磨きがかかってきました。さて新年度は？準備中の計画をのぞくと……、胸が高鳴ります。（村山）

▼3年間経った今、市民の会は所謂「見えざる無形資産」となりました。さらに、確かな資産にグレードアップしました。（山本）

□山は、眺めるため、登るため、関りなくも存在する。「はむらの第九」登頂万歳！（横田）

ゆとろぎ通信

2009年3月1日改題発行（通巻12号）

Vol.4

発行 ■羽村市教育委員会
企画 ■羽村市生涯学習センターゆとろぎ
編集 ■ゆとろぎ協働事業運営市民の会

〒205-0003
羽村市緑ヶ丘1-11-5
042(570)0707
FAX 042(570)6422
<http://www.city.hamura.tokyo.jp>

編集 ■江久保千英・関根和美・長尾晃・日下田まや・平田栄一・福佐健二・古澤義隆・堀茂子・村山利夫・山本豊・横田轟
写真 ■平田栄一・村山利夫

印刷 ■(株)ビズステーション
〒359-0011
埼玉県所沢市南永井480
04(2951)2205

無断転載をお断りします。
Copyright ©2008 by YUTOROGI
All rights reserved.